

SCOTLAND GAZETTE

スコットランドの風

NPO 法人 日本スコットランド交流協会 ニュースレター / The Japan Scotland Association News Letter



2018.4
Vol.10



スコットランド デイ in 東京 2017

David Mundell スコットランド担当大臣 初来日

「ジェームズ 6 世 / 1 世という王様」

フランク・ポイランド氏 JSA 新会長に就任

2018 年 JSA 年次総会のお知らせ / スコットランドデイ in 東京 2018

Japan Week 2018 University of STIRLING

エヤーシャー・フィドル・オーケストラ / 「スコットランド訪問」

支部活動報告 / 映画紹介 / 会員紹介 / 書籍紹介



1. クリス・フジワラ氏 (映画評論家・元エディンバラ・フィルムフェスティバル・ディレクター) による講演 2. 佐藤健作氏 (和太鼓奏者) による講演 3. 山下門氏 (MY COMPLEX, 一人芝居) による講演

第2回

スコットランド デイ in 東京 2017



スコットランド デイ in 東京 2017 が開催されました。
前年を上回る規模で内容も盛りだくさんとなり、大変な盛況となりました。

第1部

スコットランド留学フェア

2017年度スコットランドデイの第1部では、スコットランドの大学に関する個別ブースを設けた留学フェアを実施致しました。エディンバラ大学やグラスゴー大学など、普段ほかの留学フェアにはあまり参加



されないスコットランドの大学も多くご協力下さり、留学希望者にブースにて資料を配布し、多くの情報を提供することが出来ました。特に、スターリング大学とセント・アンドリュース大学からは直接担当官が出席し、ブース

での個別相談だけでなく大学についてのプレゼンテーションも行われ、来場者にとって有意義な時間となったかと思えます。また、それぞれの大学院の卒業生による相談ブースでは、アットホームな雰囲気の中、各大学についての情報だけでなく、現地での生活全般について質問を受けるなどして好評を博していました。最後になりましたが、ご協力下さいました各大学の関係者・卒業生の皆様、本当にありがとうございました。来年のスコットランドデイにはさらに多くの大学をご招待し、より多くの留学希望者に有意義な情報を提供できればと考えております。(小野山 茜)



留学フェアの様子

第2部

スコットランド講演 & トーク

第2部は和装に下駄の姿で艶やかにご登場された和太鼓奏者の佐藤健作氏、続いて MY COMPLEX として台本から演出まで手がける一人芝居役者の石曾根有也氏にスコットランドにおけるパフォーマンスについてお話頂き、それぞれその思いや情熱、信念の伝わってくるトークショーとなりました。最後は映画評論家のクリス藤原氏をお招きし「映画の中のスコットランド」と題して個性溢れるスコットランドの映画制作の歴史とその魅力についてお話し頂きました。スコットランドへ行ったことのある方や、写真や映像でスコットランドの風景を見てその自然と息づく文化に憧憬を抱いたことのある方であれば、記憶をクリス藤原氏の語りに重ね合わせて時空を超えた気持ちとなったことと思います。ケン・ローチ監督作品など近代の映画から、ビル・ダグラスなど四半世紀以上も前の映画に至るまで興味深い内容で、ショートフィルム上映もありました。クリス藤原氏が説明されたように一種の神秘的エネルギー “ritual, magical and spiritual power” を発するスコットランド映画に思いを馳せることのできる素敵な講演でした。(梶谷 聡子)



スコットランド講演 & トークの様子

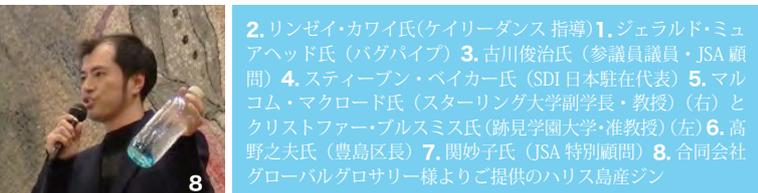
第3部

ペチャクチャ・ナイト on Scotland

第3部のペチャクチャ・ナイトでは、各界の第一線で活躍されている方々が、20枚のスライドを使い、各6分でご自身の熱い思いを表現されました。今回はマイルズ・オグルソープ氏 (From Scotland's Forth Bridge to Shinkansen)、ケリー・プライソン氏 (The University of Stirling's Golden Jubilee) がScotland から参加、下村絵里子 (美濃市とアーティスト) と水野慎子氏 (マッキントッシュとミシャ) は岐阜からと遠方より駆けつけて下さいました。雨宮揮也氏 (Whisky Galore), 小林健太氏 (英国のパレエ) はそれぞれの専門分野のお話をされ、SDIのスティーブン・ベーカー氏 (日本とScotland no 現在) は、両国の交流の最先端をデータを使って語られました。熊本から参加のショーン・マイケル・ウイルソン氏 (MANGA) は日本が誇る文化の漫画に異なる視点でアプローチをし、「忠臣蔵」は『The 47 Ronin』へと変化、その結果世界の人に新たな気づきを与え、異文化の交流が新たな発展に繋がった事例を示されました。下村氏からは美濃紙で作られた様々な小物を来場の方々へのプレゼントとして多く差し入れて頂きました。(関 妙子)



1. スティーブン・ベーカー氏 (スコットランド国際開発庁日本事務所長) 2. 水野慎子 (飛騨高山美術館) 3. マイルズ・オグルソープ氏 (産業歴史建造物専門家) 4. 小林健太氏 (小林紀子パレエ・シアター) 5. 下村理恵子氏 (NPO 法人四つ葉のコウソ) 6. ケリー・プライソン氏 (スターリング大学振興部長) 7. ショーン・マイケル・ウイルソン氏 (漫画家) 8. 雨宮揮也氏 (株式会社シンカ)



2. リンゼイ・カワイ氏 (ケイリダンス 指導) 1. ジェラルド・ミューアヘッド氏 (バグパイプ) 3. 古川俊治氏 (参議員議員・JSA 顧問) 4. スティーブン・ベーカー氏 (SDI 日本駐在代表) 5. マルコム・マクロード氏 (スターリング大学副学長・教授) (左) とクリストファー・ブルスミス氏 (跡見学園大学・准教授) (右) 6. 高野之夫氏 (豊島区長) 7. 関妙子氏 (JSA 特別顧問) 8. 合同会社グローバルグロサリー様よりご提供のハリス鳥産ジン

第4部

スコットランド・ナイト

第4部スコットランド・ナイトは今年も数多くの方にご参加頂きました。開会に際し、関妙子 JSA 特別顧問、古川俊治参議院議員 (JSA 顧問)、スティーブン・ベーカー SDI 日本駐在代表 (JSA 大使)、スターリング大学副学長、マルコム・マクロード教授から熱のこもったお言葉を頂き、翌年の Scotland Day in Tokyo 開催への力強い後押しとなりました。昨年に引き続き演奏下さった、JSA 会員のジェラルド・ミューアヘッド氏の郷愁豊かなバグパイプの音色は、スコットランドをまだ訪れたことのない方々もその地に思いを巡らせるような、素晴らしいものでした。ハイライトは参加者一同によるケイリダンス。やはり JSA 会員のリンゼイ・カワイ氏の英語と関西弁を交えた、テンポ良くユーモア溢れる指導に次々と踊りの輪が広がり、東京芸術劇場屋外エントランスに場を移した頃には、更に大きな輪が広がっていました。バグパイプの生演奏をバックに踊るケイリダンスは大いに盛り上がり、最後は道行く人々が遠巻きに眺める中、「Auld Lang Syne (蛍の光)」の大合唱で楽しい一夜は大団円となりました。(上門 和子)



英国政府閣僚 David Mundell スコットランド担当大臣 初来日

JSA 名誉顧問 関 妙子

2月14日に英国政府の閣僚（保守党）のスコットランド担当大臣 David Mundell 氏が初来日、それに伴うイベントに参加し、NPO 日本スコットランド交流協会の活動など、親しくお話しさせていただきました。2月14日夜には、英国大使館にて Paul Madden 英国大使氏主催で Mundell 氏を迎えての「スコットランドの食と飲み物を楽しむ夕食会」が開かれ、日本でスコットランドの文化、ビジネス、教育などに関連がある十数名のゲストの方々とは Madden 大使、Mundell 大臣を囲んで、Scotland の食材を使った美味しいお食事をいただきながら、出席

の方々それぞれの分野での活動の様子など意見交換をさせて頂きました。来日当日の夜でしたので、Mundell 大臣は日本滞在中の様々な分野の方々との会談を楽しみにしていると話されました。

翌2月15日は、こちらも大使主催の「英国留学・研修生同窓レセプション」が大使館で開かれ、Mundell 大臣が、チーゼニング奨学生（英国政府が将来のリーダー養成のために英国大学院留学の機会を提供している奨学金制度）、英国留学経験者、教育関係者、グローバルスコットのメンバーなどを中心に約70名ほどの方々と直接会って意見交換されました。



1. Mundell 大臣と 2. Madden 在日英国大使と

News Information

エヤーシャー・フィドル・オーケストラ 2019年7月 来日公演決まる

11才から20才までの若い演奏者達76名からなる「Airshire Fiddle Orchestra」が2019年7月に初の日本公演を行うことになりました。今まで、英国議会、ヨーロッパ各国の議会、ホワイトハウス、ブロードウェイ、シドニー・オペラ・ハウス、中国、南アフリカなどで演奏し、世界各国にScotlandの音楽を届けてきたオーケストラです。2月中旬、日本公演の打ち合わせにオーケストラのTour Directorで、ご自身もFiddle奏者のWallace Galbraith (MBE)氏が来日され、SDIのDr Stephen Bakerと共に会いました。日本での演奏活動にJSAは喜んでお手伝いをしたいとお話しました。2019年7月は2週間の滞在で、東京をはじめ日本の各地で演奏予定です。Scotland伝統民族楽器のFiddle中心としたオーケストラの演奏会を会員の皆様も楽しみにしてください。(関 妙子)



©Airshire Fiddle Orchestra

1. 車窓風景 2. 左から関妙子 (JSA 名誉顧問) / R Wallace Galbraith MBE 氏 (Tour Director) / Stephen Baker 氏 (スコットランド国際開発庁 日本駐在代表)



ジェームズ 6 世 / 1 世という王様

在エディンバラ総領事 松永 大介

まことに不思議な王様である。そして何故か気になる王様である。まず名前の後につく数字からして彼の歴史的意義を表している。はじめてスコットランド王とイングランド王とを兼ねた（同君連合を実現した）人物であり、スコットランド王としては6世だが、イングランド王としてはそれ以前にジェームズという王様がいなかったので1世なのである。

イングランド王としては前代のエリザベス1世が一生独身で子供がいなかったため、エリザベス1世の父であるヘンリー8世（トランプのハートのキング顔をした英国国教会を創設した王様）のお姉さんのひ孫であるジェームズがテューダー朝の血を引いているということで白羽の矢が立ち、イングランド王としてロンドンに招かれたのである。

この辺りの経緯は God's Secretaries(神様の書記たち) という本の第1章に大変面白く描かれている。ロバート・ケアリー卿という人がロンドンから何日か馬を駆ってエディンバラ城に到着しジェームズ6世を連れてロンドンに帰る旅が生々しく描かれている。もっとも、この王様はエディンバラ城で生まれたにもかかわらず、その後二度とエディンバラに帰ることはなかったという。

ところで、先程あげた本の「神様の書記たち」というタイトルが、この王様の大きな業績を象徴している。このタイトルがつけられたのは、この王様が日本で「欽定訳聖書」とよばれる英語で King James Version (KJV) とよばれる聖書の英訳作業を主導したからである。「汝盗むなかれ」(Thou shalt not steal) といった人口に膾炙している聖書の文句は KJV に由来している。

王が1歳の赤ちゃんの時にスターリングのホーリールード教会で戴冠式が行われたが、スコットランド教会(Kirk of Scotland)を設立したジョン・ノックスがその際説教したというのだから、王はスコットランド教会の信仰のもとで育てられたと思われる。しかし、イングランド王位を兼ねてから王権神授説を堅持して自らの絶対権力の正統性を主張したというのだから英国国教会の信奉者になったと言うべきだろう。この王様は語学が好きだったようなので、聖書の英訳を主導したのは、言葉に対する関心の強さのせいだったのかも知れない。

この王様の治世に後代語り継がれる有名な事件が起こっている。テロの先駆けとも言える議会爆破未遂のガイ・フォークス事件がその一つである。この事件の発生はイングランド王位を兼ねた翌々年(1605年)なのでイングランドにおける治世の初期である。ガイ・フォークス事件にちなんでガイ・フォークス祭りというものがあるらしい。もっとも、筆者は爆弾に見立てた黒い風船を飾ったパーティーに出席したことはあるが、実際のお祭りはまだ見た事がない。

もうひとつ興味深いのは、ジェームズ王がシェイクスピアと同時代人であるということだ。シェイクスピアの生年と没年を1564-1616(ひとごろしーいろいろ)と覚えるがジェームズ6世は2年後の1566年生まれである。ハムレットの母親は、夫である王様を殺した王弟と再婚するが、この筋が夫であるダーンリー卿(ジェームズ王の父)を殺害したと疑われたボズウェル伯と女王メアリー・スチュアート(ジェームズ王の母)が再婚したことに酷似していると言われる。

ハムレットが書かれたのはジェームズがイングランド王位を兼ねる直前のものであるが、ジェームズ王の治世でも上演されていたとすれば、自分の母親にまつわるエピソードを題材にした作品に対しても王が大らかに認めていたことにはなる。

もっとも、母であるメアリー・スチュアートはエリザベス1世の指示のもとイングランドで斬首されているし、息子であるチャールズ1

世も清教徒革命の結果斬首されている。母親も息子も首を斬られて亡くなっているとは王族に産まれるのも楽ではない。

なお、17世紀初頭にスコットランドとイングランドの同君連合

が成立したのは、江戸幕府の成立と時期を同じくしていることに注目したい。それもあって、ジェームズ王と徳川家康の間では書簡の交換が行われていることは意外に知られていない。また、第2代将軍・徳川秀忠は、ジェームズ王に鎧兜一式を贈呈しており、それはイングランドのリーズに保管されているらしい。ちなみに、家康が死去したのは、シェイクスピアと同じ1616(いろいろ)年である。

ジェームズ王から始まったスチュアート朝は、ひ孫のアン女王でいったん途絶えるが、ジョージ1世をドイツのハノーヴァーから迎えることによって後に継がれていく。その理由は、ジョージ1世が同じくジェームズ王のひ孫だったことによる。(日本では全然関係のないドイツから誰かを連れてきて王様にしたように世界史の講義などで言われることがあるが、ジェームズ王の娘がドイツに嫁いだことによる子孫になる。)

テューダー朝とスチュアート朝をひ孫としてつないだのがジェームズ王だったが、そのひ孫が今度はスチュアート朝とハノーヴァー朝をつないだのである。ということは、現王室もジェームズ王の血を引いていることになる。エリザベス女王のご母堂であるエリザベス皇太后もスコットランドのグラマス城で子育てになっているが、遠くご先祖を辿ってもスコットランドに行き着く。この辺りイングランドの人達はどうか受け止めているのだろうか興味がある。

(以上の中で見解に当たる部分は個人的なものであることを付記する)



King James I of England and VI of Scotland after John De Critz the Elder / oil on panel, early 17th century, based on a work of circa 1606 / NPG 548 © National Portrait Gallery, London



ジェームズ王が生まれたエディンバラ城(松永氏撮影)

フランク・ボイランド氏 JSA 新会長に就任



2018年4月、フランク・ボイランド氏 (Mr Frank Boyland) が JSA の新会長に就任されました。ボイランド氏は2005年8月にスコットランド国際開発庁 (SDI) の日本代表として来日され、3年間に渡りスコットランドと日本のビジネス・文化の交流に尽力され、

2008年からはSDIの日本を含むアジア地区のSenior Directorとして活躍されました。2016年にFusion SystemsのHead of Business Developmentとして日本に戻ってこられ、Business Consultantの傍ら、ヨガの先生、アメリカンクラブの理事としても活躍されています。私は2005年来日されて以来の知り合いで、Glasgow出身でキルトの似合う生粋のScotであり、合わせて10年余の日本滞在の経験もあるボイランド氏に、スコットランドと日本両国の懸け橋となるJSAの会長としての活躍を大いに期待しています。(関 妙子)

Message to Members

First of all, I'd like to thank the leadership of the Japan Scotland Association for kindly inviting me to assume the role of President of the JSA. I am very excited by the opportunity to make a contribution to the JSA and to play my part in helping to further strengthen relations between Japan and Scotland. The aims and objectives of the Association are to co-promote cultural and educational exchange between Japan and Scotland and I look forward to working with all of the JSA's members, senior team and stakeholders during my two-year term as President to help make a difference in this regard.

The Japan Scotland Association has achieved a lot in 5 short years thanks to the hard work and support of many people and organisations and I hope that we can achieve still more. Japan and Scotland has a rich and varied history and I think that the JSA can play its part in helping to maintain a vibrant, contemporary and exciting relationship between these two great countries both now and in the future. Most of all I'd like us all to have fun and I look forward to meeting as many members as possible at meetings and events in the weeks and months to come.

訪問記

スコットランド訪問

JSA 理事 上門周二・上門和子

2018年2月、私達夫婦はやっとスコットランドを訪問する機会を得ました。せっかくなので車窓風景を楽しもうという二人の意見が一致し、冬の時期ではありましたが、ロンドンからスターリングまで5時間半をかけて、(実際は人身事故で遅れが生じ、6時間半かかる。) 鉄道で移動しました。のどかな田園風景と、スコットランド国境付近の、夕陽の沈む北海の海岸線の美しさに目を奪われながら、夏の景観も見てみたいと切に思わせる列車の時間でした。

到着した翌日から、エディンバラ、グラスゴー、スターリング、セントアンドリューズを廻り、それぞれの都市の持つ威厳と風格、個性に圧倒されながら、一方で出会った人々の人なつこい人柄にはほっとするものがありました。エディンバラでは在エディンバラ総領事の松永大介氏が夕食にお誘い下さり、地元の伝統的な料理 Haggis や Cullen skinkなどを味わうことができました。総領事は初めてお会いしたにも関わらず、とても気さくに接して下さい、私達は移動の疲れも忘れ楽しく過ごすことができました。そのお話はスコットランドの歴史から自然まで非常に幅広く機知に富み、気づくと既に2時間半も時間が経っていたことに驚くほどでした。「今、公邸の庭に snowdrop という小さい白い花がたくさん咲いています」と、とても嬉しそうに話され、自然の恵みを慈しんでいらっしゃることに、Landscapeに携わる者として感慨深いものがありました。翌早朝、スターリング大学の構内を散歩すると可憐に咲く Snowdrop をあちこちに見つけることができました。

Japan Week に向け忙しいさなか、スターリング大学学長、Prof. Gerry McCormack 氏と面談できました。今年の Scotland Day in Tokyo の抱負などを説明させて頂き、学長からは「日程が合えば、是非参加したい」とのお返事を頂きました。

たった4日間の滞在で、まだまだ興味のつきないスコットランドですが、

その大きな可能性にはとても強く惹かれました。特にスターリングのコンパクトで落ち着いた佇まいが私達はいたく気に入りました。住むにも学ぶにも環境の整った街という印象を持ちました。

帰国日、エディンバラ空港までの道を急いでいると、「今日はいいい天気なので meadow がきれいだよ」と言うタクシードライバーの声。私達はのんびりと朝日に輝く牧草を眺めながら、いつかまた、そう遠くない頃にきっとこの地にやってくる予感を感じつつ、帰国の途につきました。この度の訪問に際し、微に入り細に入りご配慮下さった関妙子名誉顧問、また現地でお手伝い下さった石川 Tabner 教子氏、Benneth Esiana 氏には深く感謝申し上げます。



1. 在エディンバラ総領事 松永大介氏と 2. 車窓風景 3. Prof. Gerry McCormack & Ms. Eileen Schofieldと共に 4. 左から上門周二/Ms.Eileen Schofield/ 上門和子/石川 Tabner 教子氏 5. エディンバラにて Mr. Benneth Esiana と共に 6. snowdrop

2018年JSA年次総会のお知らせ

本年もスコットランド国際開発庁との共催でNPO法人日本スコットランド交流協会の総会を開催いたします。平日の夕方、皆様お忙しいところ恐縮ですが、万障お繰り合わせの上、ふるってご出席下さいますようお願い申し上げます。なお、会員でない方もご参加いただけます。JSAを知って頂ける良い機会ですので、ご家族、ご友人にも積極的にお声掛け下さい。総会欠席の場合は、必ず委任状の提出をお願いしております。お送り致します案内のはがきにて委任の手続きをお願い致します。

会場：英国大使館 新館ニューホール

日時：2018年6月15日（金）17:00～19:30（開場16:30）

スコットランドデイ in 東京2018 開催決定！

食に文化に風土に歴史に観光！楽しさ盛りだくさんのスコットランドをたっぷりお届けする「スコットランド・デイ」第3回の開催が決定致しました。詳細は決まり次第ホームページやニューズレターにてお知らせ致します。

スコットランドデイ in 東京2018

会場：東京芸術劇場（池袋）

日時：2018.11.24（土）



朝日新聞朝刊「ひと」欄にJSA会員のSean Michael Wilson氏が掲載されました

朝日新聞2018年1月6日朝刊の「ひと」欄にJSA会員で先のScotland Dayでもご講演頂いたSean Michael Wilson氏が掲載されました。この春出版を予定されている漫画「西郷隆盛と西南戦争」についても紹介されました。英語と日本語で出版されるそうです。朝日新聞デジタルの「ひと」欄一覧でもオンラインで一部、一定期間ご覧になれます。



朝日新聞2018年1月6日朝刊「ひと」欄より

産経新聞「読書」欄にJSA会員の武部好伸氏の書評が掲載されました

産経新聞2018年1月28日（日）の「読書」欄にJSA会員の武部好伸氏の著書『ウイスキーアンドシネマ2心も酔わせる名優たち』（淡交社）の書評が掲載されました。



産経新聞2018年1月28日「読書」欄より

映画のロケ地で巡るスコットランド①

スコットランドの旅というと、荒涼とした丘、静謐なロッホ（湖）などの美しい自然、またエディンバラ、グラスゴーなどの歴史ある都市の賑わいを楽しむというのが定番ですが、時にはたくさんあるスコットランドを舞台とした映画、テレビ、映像のうち特に気に入った作品のロケ地を訪ねてみる、というのはいかがでしょう。



2017年公開の「トレインスポッティング2」、1996年に「トレインスポッティング」が公開された時は、スコットランドのポップカルチャーを刺激的に描き話題になりました。ロケ地はEdinburghと、その近郊のLeithで概ね撮影されたようですが、中でもユアン・マクレーガー演じる主人公とその友人が駆け上がり見わたす丘、Holyrood ParkのArthurs Seatからの眺めはカールトンヒルと並ぶエディンバラ屈指の景観です。次号に続く。（光恵子）

映画『ウイスキーと2人の花嫁』

2月17日（土）より公開になった『ウイスキーと2人の花嫁』。

本作は、映画が面白いのはもちろんだが、作品自体の物語も負けず劣らず面白いのだ。原作は第二次世界大戦直後の1947年に発表された英国人作家コンプトン・マンケンジーの小説『ウイスキーガロア』。2年後の1949年には初映画化され、多くのスコットランドの人々に愛された名作だ。待望のリメイクとなる本作は、少年時代からオリジナル版のリメイクを夢見ていた1人のプロデューサーの熱意による10年の歳月をかけて製作された作品である。沈没した船に乗船していた士官候補生や座礁した船をいち早く発見した人物など、事件を直接知る人々への丁寧な取材に時間を費やし、まるでウイスキーを熟成させるかのように完成させたのだ。思わず誰かと踊りだしたくなるような心弾む音楽、可愛らしい衣装や小物、美しいスコットランドの各地で撮影された映像は見る人すべての心をほっこり幸せにしてくれる。（株式会社シンカ 雨宮揮也）





Japan Week 2018

University of STIRLING 5 February to 22 February

今年で6回目を迎えたJapan Weekが2月5日から22日にかけてスターリング大学で開催されました。現地の様子をスターリング大学の石川教子先生と現在留学中の学生さん方に報告していただきました。JSAは後援団体としてJapan Weekをサポートしています。

2018年のJapan Weekは2月19日月曜日に講演『What's Cosplay?』と映画『暗黒女子』の上映で開幕しました。翌20日火曜日には、スターリング大学の石川教子先生による初心者向けの日本語講座が開かれました。「すみません」の多用性や名刺の扱い方など1時間盛りだくさんの内容で、跡見学園女子大学と東洋英和女学院大学、早稲田大学、大妻女子大学の学生たちなどがサポートに加わりました。夕方には跡見学園女子大学の大家博教授とChris Bullsmith准教授による講演『The Wonderful World of Japanese Anime(from Astro Boy to Studio Ghibli)』がありました。会場からたびたび笑いが起こる和やかな雰囲気の中、セルアニメの代表である手塚治虫アニメが低予算ながら複雑で考えさせられるストーリーを持っていたこと、ジブリのリミテッドアニメなどの映像を用いつつ、絵やキャラクターの魅力、子供だけでなく大人も楽しめる内容が、今日の海外での日本アニメ人気につながっているということなどを教わりました。(小山内美鈴)

21日は、書道の体験会とお茶会、講演『The Shogun's 'Harem』と『Japanese Food Demonstration』が開かれました。書道のワークショップで私がサポートしたスターリング大学の学生さんは、『桜』という字に筆記体で挑戦していました。お茶会では、お抹茶と和菓子の組み合わせを楽しみました。講演『The Shogun's 'Harem』では、Lesley Downerさんが19世紀の日本の大奥での女性の生活についてお話しになりました。『Japanese Food Demonstration』では、在エディンバラ日本総領事館の公邸料理人である石幡 乾さんが日本のお寿司の歴史を説明なさった後、調理の実演を披露してくださり、参加者は江戸時代の頃のお寿司を実食しました。21日はJapan Weekの中で1番催し物の多い一日でした。このような体験を通して日本の良さがより一層広まったと感じました。(篠崎 江里子)

23日は書道と折り紙の体験会、Edinburgh大学の現役学生の方による落語の披露がありました。書道の体験会では、参加者は最初は自分の



お茶会



書道の体験会



石川教子先生の日本語講座



写真提供：University of Stirling



1. 跡見学園女子大学 大塚博教授と Chris Bullsmitth 准教授による講演『The Wonderful World of Japanese Anime(from Astro Boy to Studio Chibli)』2. 左から在エディンバラ総領事松永氏、総領事館公邸料理人 石幡 乾氏、スターリング大学学長 マコーマック氏 3. お茶会 4. 折り紙の体験会 5. 総領事館公邸料理人 石幡 乾氏の講演で戸時代の頃のお寿司を美食。わさびを揃る参加者。

書きたいように書いていましたが、徐々に、とめ、はね、はらいや筆順、字のバランスなど、細かい点にまで気を付けるようになっていました。折り紙の体験会では、鶴や手裏剣、うさぎ、扇子、ハートの形など、苦戦しながらも、折り紙に熱中し、出来上がった作品をととても嬉しそうに見つめている姿が多く見受けられました。落語公演では、聴衆は落語の独特な世界観に引き込まれていました。日本文化がわからなければ楽しめないのでは？とはじめ私は考えていましたが、控えめに笑う日本人とは正反対にこちらの方たちは大爆笑で、会場は大歓声に包まれました。JapanWeekの参加者は日本の文化や伝統に沢山触れ、日本人とも直接交流することができます。こうした催しを通し、より日本に関心を持って頂けたと思います。(福田 満璃波)



Japan Weekには日本からスターリング大学に来ている学生の皆さんの活躍が欠かせません。書道や折り紙のワークショップでの指ん役、様々なイベントの準備や片づけなど、毎年本当に細かい心配りを見せてくれています。私が講師を務める日本語クラスにも『助手』として毎回参加をお願いしています。Japan Week日本語クラスに出席する人の多くは「日本語(もしくは外国語)を習うのは初めて」です。そうした出席者の隣に日本語のNative Speakerである学生さんが座り、一対一、もしくはグループで会話の相手になってくれる。それぞれのペースに合わせて繰り返し発音練習に付き合い、必要な場合はもう一歩踏み込んだ文法説明もしてくれる。授業開始直前には参加者の多くが緊張に顔を強張らせていたのが、中盤以降はどの人も笑顔です。活気ある学生さんの存在そのものがJapan Weekの盛り上げに一役買っていると感じます。(石川 教子)



1. 跡新宿区立下落合地域交流会館 笹野洋子館長より寄贈/新宿区立地域交流会館 笹野洋子館長より寄贈 2. 総領事館公邸料理人 石幡 乾氏による調理の実演講義 3. 石川教子先生の日本語講座で名刺のやりとり 4. Edinburgh大学の現役学生による落語の披露



東京支部

Teatime English (毎月第二土曜開催)

おいしい紅茶を飲みながら、身近な話題を英語にしてみませんか？英語のレベルは問いません。気軽にご参加ください。Teatime Englishには、毎回初めてご参加される方も、英会話が初めての方も色々な方がいらっやっています。始めに、自己紹介を3つほどの文で頂き、その月に合ったトピックスについて、全体や、グループやペアになって英語で言ってみる練習をしています。



Teatime Englishの様子

スコティッシュ・キッチン (12月9日)

春スコットランドの料理をみんなで作って楽しく頂きませんか？本館では定期的にスコットランドの家庭料理教室を開催しております。講師はフィドル奏者の種子田敦子先生です。12月9日の開催は、忙しい中クリスマス料理を教えていただける、ということでいつもより多い人数が集まりました。(10名) 内容盛りだくさん、みんなで楽しく作って美味しく食べる素晴らしいひと時でした。



スコティッシュ・キッチンの様子

東北支部

2017年8月、青森公立大学の学生2名が、スターリング大学への留学派遣事業に参加しました。1ヶ月という短い期間でしたが、大学での授業以外にも、エディンバラ、グラスゴー、ネス湖へのフィールドツアーにも参加しました。スターリング大学での留学プログラムに参加し、英語力の向上はもちろんのこと、独自の文化や歴史を有するスコットランドの魅力に引き込まれていきました。新しい環境や、そこでの経験が学生たちを大きく成長させてくれたようです。



ネス湖にて

九州支部

10月22日にシェラトンホテルのレストラン パインテラスで宮崎市・(一社)みやPEC推進機構(みやざきどれ・Products・Economy・Cooperationの頭文字)の主催により『イギリスの食文化「アフタヌーンティー」に親しむ&スイーツプロジェクト成果発表会』というイベントでイギリスと日本文化の違いの話をしました。

宮崎市は2020年のオリンピック・パラリンピック参加国の内、イギリス・イタリア・ドイツの3か国のホストタウンとして決まりましたので2017年はイギリス(2018年はイタリア・2019年はドイツ)と言う事で、地元の食材を使ってスイーツを作ろうと、高校・大学・一般の参加者約200名が参加して中央からパテシエを招待して品評会及び表彰式を行いました。



1. 戸敷宮崎市長(前列の左端)と審査員パテシエ達と受賞者 2. 講演会の様子

関西支部

英会話教室

(10月21日、1月13日)

とよなか国際交流センターにて開催。講師はモード・ラムゼイさん。英会話そのものだけでなく、文化や習慣の違いなども学んでいる。それぞれ8名、9名が参加。参加者は常連のメンバーに、HPやFBを通してという初参加の人々が加わっている。モード先生のレッスンに最初は戸惑いながらも、徐々に慣れて、通常の英会話教室では学べない「スコットランドの上流階級でのマナー」が学べてよい機会だったという感想を頂戴した。



モードさんを囲んでの英会話教室の情景

JSA ウイスキー倶楽部

(9月16日)

第6回JSAウイスキー倶楽部を「スコッチ vs アイリッシュ」というテーマで「ハッセルハウス」で開催。講師はウイスキープロフェッショナルの小林、山形さん。それぞれの歴史的背景や製法の違いなどの説明を受けながら、6種類のスコッチウイスキーとアイリッシュウイスキーを飲み比べてその違いを楽しんだ。10名が参加。



「ハッセルハウス」でのJSAウイスキー倶楽部「スコッチ vs アイリッシュ」



スコットランド料理教室

(9月10日、12月3日)

春夏秋冬のスコットランド料理をモード・ラムゼイさんのアドバイスを適宜受けながら、英語レシピにより自分たちで作ってゆくというスタイル。9月は Baked Fish with Mushroom Stuffing、12月は Dressed Stuffed Cod が主菜でそれぞれ前菜とデザートも含めて料理を楽しんだ。それぞれ13名、11名が参加。モード先生のレシピは必ずデザートも作るのが楽しみのひとつですが、インスタント食品をうまく活用して立派な手作りのデザートに変身させるレシピが時折入ります。これはもともとスコットランドでは民家が離れ離れで、いつ旅人が一夜を求めて来るかも知れず、身近なものでもてなしたところから来ているとのこと。



1. 前菜 Carrot Soup と主菜 Dressed Stuffed Cod 2. モード先生の厳しいチェック 3. Baked Fish with Mushroom Stuffing 4. Whipped Jelly Cream インスタント食品を上手く活用して

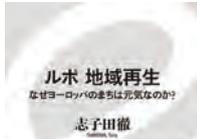
関西支部の4月以降の活動予定

- 4月1日(日) 関西ハイランドゲームズにJSAチームとして参加
- 4月15日(日) スコットランド料理教室・春の料理 西宮夙川公民館
- 5月5日(土) 第7回JSAウイスキー倶楽部 サントリー山崎蒸溜所
- 5月26日(土) 英会話教室 とよなか国際交流センター
- 6月24日(日) 武部好伸さん講演会 とよなか国際交流センター
- 7月8日(日) スコットランド料理教室・夏の料理

「ルポ 地域再生」 なぜヨーロッパの町は元気なのか？

イースト新書 志子田徹 2018年

著者の志子田徹氏は現役の北海道新聞記者として活躍されていて、2012年から3年にわたり特派員としてLondonを拠点にEuropeの各地取材してこの本を書きあげられました。第7章「地域のことは地域できめたい」の中で、Scotland独立運動について、現場に立ち会った記者として独自取材を通して、臨場感にあふれるルポと明快な分析をされています。その独立運動は多様性の尊重、多文化、他民族を包摂するものであり、ナショナリズムによらない「開かれた独立運動」、さらには「冷静に言葉を尽くした戦いだった」と説かれ、世界最先端の再生可能エネルギー立国を目指しているScotlandなので、反核も独立の重要政策であった点などの指摘も大変興味深く、皆さんに強くお勧めしたい本です。(関妙子)



志子田 徹氏

寄贈本は本部に図書として保管、会員の皆様への貸し出しもしています。是非ご利用下さい。

「万華鏡、故郷へ帰る」 一灯台と宝島とスコットランド

さわらび舎 大熊進一 2016年

著者の大熊進一氏は1990年から万華鏡のコレクションをはじめ、1996年世界で唯一の「日本万華鏡博物館」を個人でオープンされました。1816年に明らかく、遠くまで届く灯台のための光を追求する過程で万華鏡を発明したブリュースター博士がエディンバラ、セント・アンドリュース両大学の学長であった縁から、2016年には両大学で万華鏡誕生200年を記念して「万華鏡200年展」を開催されました。この本では、スコットランドでの展覧会の詳細に始まり、ブリュースター博士、灯台建設で有名なステューブソン一家、その一族で「宝島」の著者、さらには明治維新で活躍したトマス・グラバー、ヘンリー・ダイアーをはじめ多くのScotlandの人々に至るまで、まるで万華鏡のように話題が限りなく広がっていきます。著者の万華鏡に対する情熱がひしひしと伝わってくる大変魅力的な本です。本を読んだ直後に「日本万華鏡博物館」に飛んでいきました。なお、本をご希望の方は、直接博物館(TEL: 048-255-2422)に連絡してください。(関妙子)



大熊進一氏

募集

「スターリング大学夏期英語研修」(4週間: 2018年8月6日~8月31日) 参加者募集

4週間の英語コースで英語の習得を目指したい方、どうぞご参加ください! EUで最も美しいと言われるスターリング大学へ短期留学してみませんか? Campus内のGolf Course、Swimming Pool、テニスコートなどスポーツ設備も充実しています。16歳以上であればどなたでもご参加頂けます。

*英語コース: 上級、中級、初級とレベルに併せて参加できるため、英語能力は問いません。

*寮: すべて個室で、各部屋バス・トイレ付、キッチン共有で自炊です。

*費用: £2,625 (GBP) 学費、寮費、週末旅行(ネス湖1泊も含め)、その他のEVENT代すべて含まれます。

◎カリキュラムには、週末のエディンバラ・グラスゴー(一日)観光、ネス湖(一泊)旅行、スコットランドダンスパーティー等も含まれています。◎Flight代と食事(自炊で、1週間3食で5,000円~6,000円程)は別途支払いが必要です。興味のある方は気軽に連絡ください。会員のご家族、ご友人方もご参加いただけます。2~3週間の参加も可能です。

関妙子 (Stirling University, Honorary Doctor) 〒161-0033 新宿区下落合 3-12-28-1401 TEL/FAX 03-5988-8785

携帯 090-7192-4650 E-mail: taeko.seki@gmail.com 締切: 5月末



寄附御礼

浮島彫刻スタジオ 殿 金 50,000円

種子田 敦子 殿 金 10,000円

齊藤 史帆 殿 金 5,000円



厚く御礼申し上げます

会の運営の一層の充実を図るために、活動資金をご支援くださいますようお願い致します。お寄せいただいたご寄附につきましては、本協会の活動全体を支えてくださることを目的とした「一般寄付」として活用させていただきます。

SCOTLAND GAZETTE スコットランドの風

2018.4 Vol.10

JSA ニュースレター

2018年4月1日

発行………NPO法人 日本スコットランド交流協会

編集・デザイン………加藤 秀

表紙写真………カールトンヒル (エディンバラ) / photo: 加藤 秀

印刷………印刷プリントバック